

教育資料室だより

No.35 令和(2026).7.7

発行 桐生市教育資料室

桐生市小曾根町3-30(桐生市教育センター内)

電話 0277(46)6191

桐生の教育史をたどる

【学制発布以前の教育 その2】

今回は寺子屋を取り上げます。寺子屋は、庶民の子どもが読み書きの初歩を学ぶ簡易な学校であり、私設の教育機関です。その起源は、中世末期にまで遡り、寺院教育を母体として発生したとされ、「寺子屋」「寺子」という呼称もここから発生しています。

江戸時代中期以降にだいに発達し、幕末には江戸や大阪はもとより、地方の小都市、さらに全国の農山漁村にまで広く普及します。寺子屋では、一般的に「読み」「書き」「そろばん」を教えたとされています。しかし、そのほとんどは「読み」「書き」が中心で、「そろばん」を扱っていたのは、江戸や京都・大坂などの都市部に多かったようです。因みに算術の指南書『塵劫記』は江戸初期に作られています。時代が下り徐々に地方にも商品経済・貨幣経済が浸透するに伴って算用・算術の習得が重要となります。商家へ丁稚奉公に出れば、商品の数量や売上の管理等に計算技能の習得は必要不可欠でした。織物業を中心とする商業都市でもあった桐生新町の寺子屋では、どのような状況だったのでしょうか。興味のわくところです。

昭和11年(1936)、当時の群馬県教育会は「群馬県庶民教育調査票(文献等ノ方法ニヨリテ調査スルモノ)」と「寺子屋教育調査(寺子屋教育ヲ受ケタル現存者ニツキ調査ニ聞き取り調査)」を県下の小学校に配布し、寺子屋調査を実施しました。それによれば、群馬県内には1215箇所の開設(※1)が確認されています。しかし、明治5年(1872)の学制発布から60年以上も経ってからの調査ですから正確とはいええず、実数はもっとたくさんあったと推測されます。



寺子屋の図

「桐生市教育史」には、桐生新町及び近郊に開設された56の寺子屋が紹介されています。次ページ以下に表にしてまとめてみました。明治期まで続いていた所も多く、そろばんを教えていた寺子屋も3分の1ほどあります。他地域との比較資料がないので、その多寡は不明です。

桐生の特徴は女性師匠が5人いることとほとんどの寺子屋に女子の寺子がいるということです。前述の調査によれば、県内には女性師匠が10人いました。ほんのわずかとはいえ、その内の半数が桐生です。封建社会、男尊女卑の時代に相当数の女子が学んでいたことも特筆すべきことです。桐生近郊には小領主が治める土地もあり、安永8年(1779)には出羽松山藩の領地となり、陣屋も置かれて(※2)いました。しかし、そこにはごく少数の役人しか居住せず、桐生新町は百姓身分の住民が、商人や職人として比較的自由に活動できる在郷町であり、織物業を通して、江戸との交流が文化面も含めて盛んだったことが女子教育を高めた要因の一つかと思えます。

〈学制発布以前の教育 おわり〉

※1 群馬県教育史 第一巻 52ページ

※2 桐生が岡動物園のふもと、寂光院・たちばな保育園の辺り

☆参照 『桐生市教育史(上巻)』 『群馬県教育史(第1巻)』

桐生の人物 <その6>

田村幌子

〔教育編〕

田村幌子は天明5年(1785)下久方村の織物買継商・田村金兵衛の長女として生まれました。大変賢く、その才能が認められ17歳で江戸幕府



大奥の右筆に採用されます。右筆は幕府の役職の一つで、文書の記録や管理などをする仕事で、知識が豊富で教養がなければ務まりません。幌子はこの役目を立派に果たし、家督を継いだ兄・敬之を助けるため、31歳で桐生へ帰り、傾きかけていた家業を立て直していきます。その後、相模国出身の林兵衛と結ばれ、夫とともに精励し、一層家を繁栄させました。

そんな幌子の優れた才能を見込んだ近隣の人々に請われて、文政12年(1829)『松声堂』と名付けた寺子屋を開塾し、子女の教育に力を注ぎます。女性師匠はほとんどいなかった時代です。女子の寺子も多く、読み書きに加えて、和歌や作法も学びました。教えを受けた寺子たちは成人した後、恩師の徳を称えて、天保12年(1841)「筆塚(顕彰碑)」を建てます。碑文を記したのは、橘守部、江戸の国学者です。立派な碑文が刻まれた石碑は、今でも桐生天満宮境内の中程、社殿に向かって右側に立っています。

★「旧教育資料室だより53号」をもとに構成 ☆参照 『明日へ伝えたい桐生の人と心(下巻)』

庭訓往来



女庭訓往来

寺子屋で使われていた書物
(教育資料室蔵)

	名 称	地 域	師 匠 ○は女性	開業期間	教育内容	寺 子	
						男	女
1	常盤堂	桐生新町	岡部政住・正致(国学者)	享和年間～弘化年間			
2	孩児園	桐生新町	新居玄圃(医者)	文政11年～天保4年	読み書き	11	9
3	玉泉堂	桐生新町	高岩良三郎(漢学者)	弘化年間～明治6年			
4	松齡堂	桐生新町	八木橋愿恭(医者)	弘化2年～文久2年	読み書き		
5	佐羽塾	桐生新町	○佐羽きし [絹買商 佐羽清右衛門の妻]	嘉永年間～明治4年	読み書き	30	20
6	二代松声堂	桐生新町	○望月ふく[書家 快三の妻]	文久元年～明治5年	読み書き 作法 漢文	35	120
7	桐生学堂	桐生新町	海上香匡(漢学者)	明治2年～5年	漢学	50	
8	東照寺	今泉村	山田霧溪(僧侶)	天保年間～嘉永4年	読み書き		
9	観音院	今泉村	馬島本空(僧侶)	元治元年～明治5年	読み書き	30	20
10	関口塾	堤村	関口紀忠(農民)	文化年間～文政11年	読み書き		
11	須賀廼舎	村松村	小島行楚・行快・行修	文政2年～明治2年	読み書き そろばん	60	40
12	桐華堂	新宿村	国定良(歌人)	文化10年～安政年間	読み書き そろばん	20	10
13	鳳岡堂	新宿村	岩瀬徳三郎(農民)	天保年間～明治6年	読み書き そろばん	60	20
14	用人塾	新宿村	旗本落合氏の用人 某	元治元年～明治2年	読み書き そろばん 作法	20	10
15	西野学舎	下久方村	西野常竜(国学者)	明和年間～寛政末年	国学		
16	松声堂	下久方村	○田村梶子 ※人物参照 [絹買商 林兵衛の妻]	文政12年～文久元年	読み書き 作法 和歌	30	110
17	梅花堂	下久方村	○前原照子[神官 勝任の妻]	天保11年～明治4年	読み書き 作法	35	15
18	妙音寺	下久方村	弘円・鳳霊(僧侶)	嘉永年間～明治元年	読み書き	20	10
19	春鷹亭	下久方村	小野重世(神官)	文久元年～明治4年	読み書き	20	10
20	西方寺	上久方村	竜巖・西本大行(僧侶)	天保年間～明治6年	読み書き そろばん	24	
21	渭雲寺	上久方村	梅本恵素(僧侶)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	28	4
22	持丸塾	高沢村	新井喜惣次(神官)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	10	
23	高園寺	高沢村	朴道(僧侶)	文久3年～明治6年	読み書き	33	6
24	落合塾	二渡村	落合忠右衛門(農民)	弘化2年～明治元年	読み書き そろばん	9	3
25	千手院	二渡村	小林糸作(修験者)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	4	1
26	糸井塾	二渡村	糸井勝衛(農民)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	8	2
27	長泉寺	二渡村	小林亮禅(僧侶)	慶応年間～明治6年	読み書き	10	2
28	東禅寺	東小倉村	梅巖(僧侶)	万延元年～明治5年	読み書き そろばん	10	2
29	崇禅寺	西小倉村	梅巖(僧侶)	天保年間～安政6年	読み書き そろばん	15	6
30	雲祥寺	須永村	茂岡仙州(僧侶)	文久年間～明治3年	読み書き そろばん	40	20
31	新井塾	下仁田山村	新井廉斉(農民)	天保年間～明治2年	読み書き そろばん	27	13
32	報身寺	如来堂村	竜笛・弁我(僧侶)	寛政年間～天保8年	読み書き		
33	下山塾	如来堂村	下山又五郎(農民)	天保年間～弘化3年	読み書き	25	5
34	中林塾	如来堂村	中林伴蔵(農民)	文久年間～明治6年	読み書き そろばん	10	5
35	加藤塾	如来堂村	加藤忠作(農民)	文久年間～明治6年	読み書き そろばん	22	8
36	片桐塾	如来堂村	○片桐てい[医者 市蔵の妻]	慶応年間～明治3年	読み書き	10	5
37	大善寺	下新田村	綜誉・経誉(僧侶)	文化年間～天保13年		3	9
38	青木塾	下新田村	青木善右衛門(農民)	嘉永年間～明治7年	読み書き	50	20
39	森田塾	下新田村	森田宇平(農民)	嘉永年間～明治3年	習字	25	10
40	今泉塾	下新田村	今泉儀平(農民)	明治3年～7年	読み書き	15	10
41	新井塾	天王宿村	新井幸右衛門(農民)	文政年間～天保2年	読み書き		
42	天王院	天王宿村	荻原万蔵(修験者)	安政年間～明治初年	読み書き	25	15
43	桜井塾	蕪町村	桜井金兵衛(農民)	天保年間～文久3年	読み書き そろばん		
44	神泉寺	上広沢村	小林義雄(医者)	幕末期～明治6年	読み書き	10	3
45	中里書院	上広沢村	中里正庵(医者)	元治元年～明治元年	読み書き	4	2
46	津久仙塾	上広沢村	津久井仙右衛門(農民)	明治元年～6年	読み書き	4	2
47	津久藤塾	上広沢村	津久井藤兵衛(農民)	明治2年～6年	読み書き	8	3
48	大沢塾	中広沢村	大沢丹蔵(農民)	幕末期～明治6年	読み書き	8	3
49	松広舎	下広沢村	高木耕水(農民)	弘化元年～安政5年	読み書き 詩文 和歌		
50	東沢寺	一本木村	月沢禅光(僧侶)	幕末期～明治6年	読み書き	15	5
51	鹿貫塾	境野村	物部副雄(儒学者)	宝暦年間～明和7年	読み書き		
52	祥雲寺	境野村	新井法山(僧侶)	嘉永年間～明治7年	読み書き	15	
53	五宝院	境野村	堀越光道(修験者)	幕末期～明治7年	読み書き	20	10
54	法性院	境野村	真井宗周(修験者)	幕末期～明治7年	読み書き	20	17
55	竜大寺	下菱村	細川乾二(農民)	慶応年間～明治5年	読み書き そろばん	35	15
56	泉竜院	下菱村	禅永(僧侶)	天保7年～慶応年間	読み書き	41	2

	名 称	地 域	師 匠 ○は女性	開業期間	教育内容	寺 子	
						男	女
1	鹿貫塾	境野村	物部副雄(儒学者)	宝暦年間～明和7年	読み書き		
2	西野学舎	下久方村	西野常竜(国学者)	明和年間～寛政末年	国学		
3	報身寺	如来堂村	竜世・弁我(僧侶)	寛政年間～天保8年	読み書き		
4	常盤堂	桐生新町	岡部政住・正致(国学者)	享和年間～弘化年間			
5	関口塾	堤村	関口紀忠(農民)	文化年間～文政11年	読み書き	6	2
6	大善寺	下新田村	綜嘗・経嘗(僧侶)	文化年間～天保13年		3	9
7	桐華堂	新宿村	国定良(歌人)	文化10年～安政年間	読み書き そろばん	20	10
8	新井塾	天王宿村	新井幸右衛門(農民)	文政年間～天保2年	読み書き		
9	須賀廼舎	村松村	小島行楚・行快・行修(神官)	文政2年～明治2年	読み書き そろばん	60	40
10	孩児園	桐生新町	新居玄圃(医者)	文政11年～天保4年	読み書き	11	9
11	松声堂	下久方村	○田村梶子 ※人物参照 [絹買商 林兵衛の妻]	文政12年～文久元年	読み書き 作法 和歌	30	110
12	東照寺	今泉村	山田霧溪(僧侶)	天保年間～嘉永4年	読み書き 詩文		
13	鳳岡堂	新宿村	岩瀬徳三郎(農民)	天保年間～明治6年	読み書き そろばん	60	20
14	西方寺	上久方村	竜巖・西本大行(僧侶)	天保年間～明治6年	読み書き そろばん	24	
15	崇禅寺	西小倉村	梅巖(僧侶)	天保年間～安政6年	読み書き そろばん	15	6
16	新井塾	下仁田山村	新井康齊(農民)	天保年間～明治2年	読み書き そろばん	27	13
17	下山塾	如来堂村	下山又五郎(農民)	天保年間～弘化3年	読み書き	25	5
18	桜井塾	蕪町村	桜井金兵衛(農民)	天保年間～文久3年	読み書き そろばん		
19	泉竜院	下菱村	禅永(僧侶)	天保7年～慶応年間	読み書き	41	2
20	梅花堂	下久方村	○前原照子[神官 勝任の妻]	天保11年～明治4年	読み書き 作法	35	15
21	玉泉堂	桐生新町	高岩良三郎(漢学者)	弘化年間～明治6年			
22	松広舎	下広沢村	高木耕水(農民)	弘化元年～安政5年	読み書き 詩文		
23	松齡堂	桐生新町	八木橋愿恭(医者)	弘化2年～文久2年	読み書き		
24	落合塾	二渡村	落合忠右衛門(農民)	弘化2年～明治元年	読み書き そろばん	9	3
25	佐羽塾	桐生新町	○佐羽きし (絹買商 清右衛門の妻)	嘉永年間～明治4年	読み書き	30	20
26	妙音寺	下久方村	弘円・鳳霊(僧侶)	嘉永年間～明治元年	読み書き	20	10
27	森田塾	下新田村	森田宇平(農民)	嘉永年間～明治3年	習字	25	10
28	青木塾	下新田村	青木善右衛門(農民)	嘉永年間～明治7年	読み書き	50	20
29	祥雲寺	境野村	新井法山(僧侶)	嘉永年間～明治7年	読み書き	15	
30	天王院	天王宿村	荻原万蔵(修験者)	安政年間～明治初年	読み書き	25	15
31	渭雲寺	上久方村	梅本恵素(僧侶)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	28	4
32	持丸塾	高沢村	新井喜惣次(神官)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	10	
33	千手院	二渡村	小林糸作(修験者)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	4	1
34	糸井塾	二渡村	糸井勝衛(農民)	幕末期～明治6年	読み書き そろばん	8	2
35	神泉寺	上広沢村	小林義雄(医者)	幕末期～明治6年	読み書き	10	3
36	大沢塾	中広沢村	大沢丹蔵(農民)	幕末期～明治6年	読み書き	8	3
37	東沢寺	一本木村	月沢禅光(僧侶)	幕末期～明治6年	読み書き	15	5
38	五宝院	境野村	堀越光道(修験者)	幕末期～明治7年	読み書き	20	10
39	法性院	境野村	真井宗周(修験者)	幕末期～明治7年	読み書き	20	17
40	東禅寺	東小倉村	梅巖(僧侶)	万延元年～明治5年	読み書き そろばん	10	2
41	雲祥寺	須永村	茂岡仙州(僧侶)	文久年間～明治3年	読み書き そろばん	40	20
42	二代松声堂	桐生新町	○望月ふく[書家 快三の妻]	文久元年～明治5年	読み書き 作法 漢文	35	120
43	春鷹亭	下久方村	小野重世(神官)	文久元年～明治4年	読み書き	20	10
44	加藤塾	如来堂村	加藤忠作(農民)	文久年間～明治6年	読み書き そろばん	22	8
45	中林塾	如来堂村	中林伴蔵(農民)	文久年間～明治6年	読み書き そろばん	10	5
46	高園寺	高沢村	朴道(僧侶)	文久3年～明治6年	読み書き	33	6
47	観音院	今泉村	馬島本空(僧侶)	元治元年～明治5年	読み書き	30	20
48	用人塾	新宿村	旗本落合氏の用人 某	元治元年～明治2年	読み書き そろばん 作法	20	10
49	中里書院	上広沢村	中里正庵(医者)	元治元年～明治元年	読み書き	4	2
50	長泉寺	二渡村	小林亮禅(僧侶)	慶応年間～明治6年	読み書き	10	2
51	片桐塾	如来堂村	○片桐てい(医者 市蔵の妻)	慶応年間～明治3年	読み書き	10	5
52	竜大寺	下菱村	細川乾二(農民)	慶応年間～明治5年	読み書き そろばん	35	15
53	津久仙塾	上広沢村	津久井仙右衛門(農民)	明治元年～6年	読み書き	4	2
54	桐生学堂	桐生新町	海上香匡(漢学者)	明治2年～5年	漢学	50	
55	津久藤塾	上広沢村	津久井藤兵衛(農民)	明治2年～6年	読み書き	8	3
56	今泉塾	下新田村	今泉儀平(農民)	明治3年～7年	読み書き	15	10